

令和4年度

木材保存処理工場実態調査結果

北海道水産林務部林務局林業木材課

令和5年7月

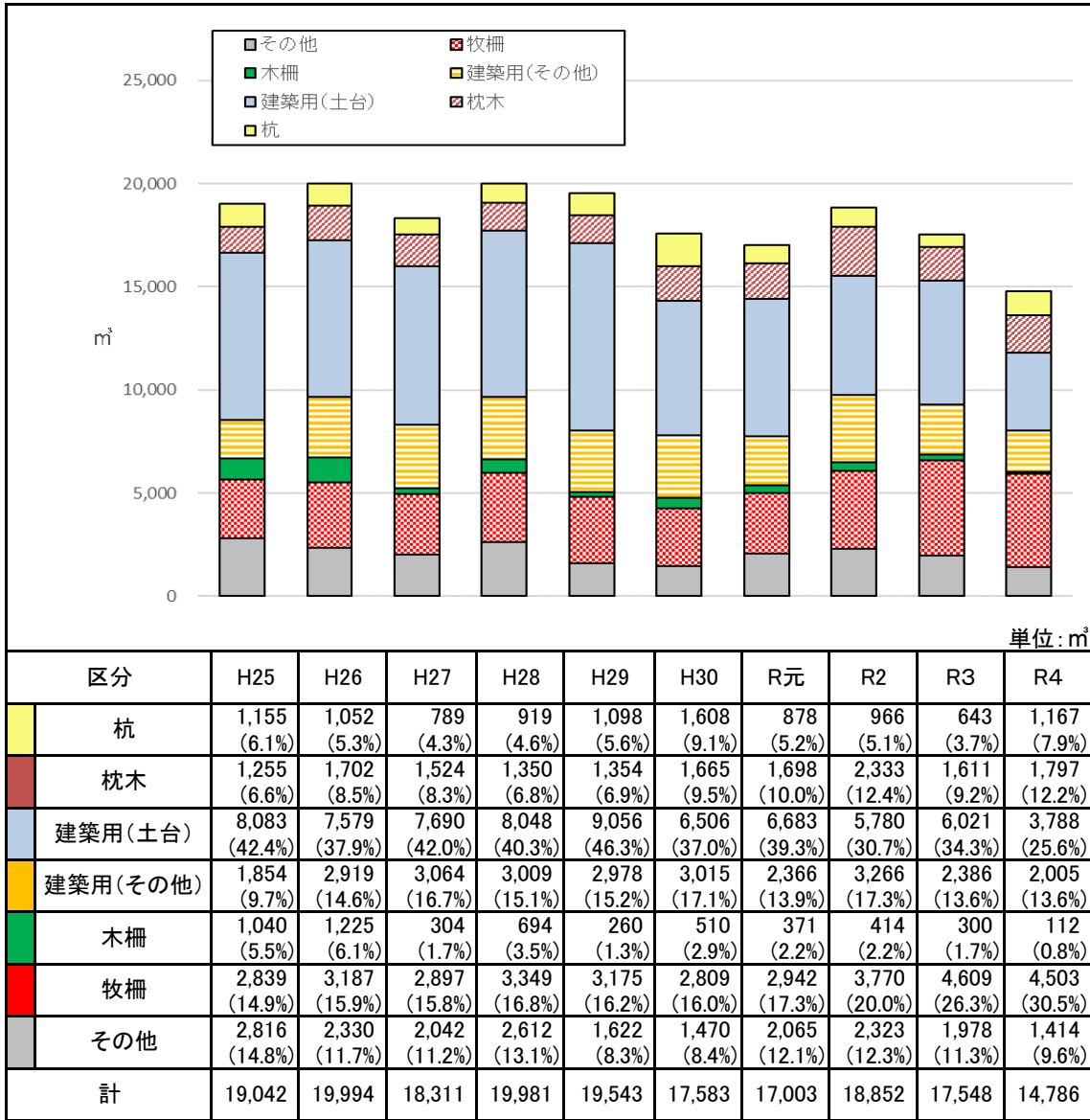
# 木材保存処理工場実態調査結果

【調査対象：毎年3月末現在で北海道が把握している木材保存処理による製品生産を実施している工場】

## 1 用途別製品生産量

- 令和4年度の対象工場数は22工場で、前年度より1工場減少しました。
- 令和4年度の木材保存処理を行った製品生産量は、14,786m<sup>3</sup>で、前年度より約15.7%減少しました。
- 保存処理を行った用途別の製品生産量は、牧柵が4,503m<sup>3</sup>(30.5%)と最も多く、次いで建築用(土台)が3,788m<sup>3</sup>(25.6%)となっています。
- 薬剤別でみると、ACQを使用した製品生産量が6,304m<sup>3</sup>と、全体の42.6%を占めています。

表1-1 用途別製品生産量の推移



(注) 四捨五入の関係で、合計に一致しないことがあります。(以降の表においても同様。)

表1-2 薬剤別製品生産量

区分	クレオソート	ACQ	AAC	CUAZ	その他	合計
杭	40	709	5	353	60	1,167
枕木	1,503	283	0	11	0	1,797
建築用(土台)	0	2,451	0	612	725	3,788
建築用(その他)	59	1,113	0	135	698	2,005
木柵	0	86	4	0	22	112
牧柵	3,270	928	4	1	300	4,503
その他	181	734	13	64	422	1,414
合計	5,053 (34.2%)	6,304 (42.6%)	26 (0.2%)	1,176 (8.0%)	2,227 (15.1%)	14,786 (100%)

単位：m<sup>3</sup>

## 2 樹種別原料使用量

- 令和4年度の原料使用量は、15,216m<sup>3</sup>で、前年度より約15.4%減少しました。
- 樹種別の原料使用量は、カラマツが6,771m<sup>3</sup>(44.5%)と最も多く、次いで米ツガが3,358m<sup>3</sup>(22.1%)、エゾ・トドが2,448m<sup>3</sup>(16.1%)となっています。
- 形態・産地別の原料使用量では、素材は国産材のみで、3,358m<sup>3</sup>(100%)となっています。また、半製品は、国産材が7,425m<sup>3</sup>(63.2%)、輸入材が4,356m<sup>3</sup>(36.8%)となっています。

表2-1 樹種別原料使用量の推移

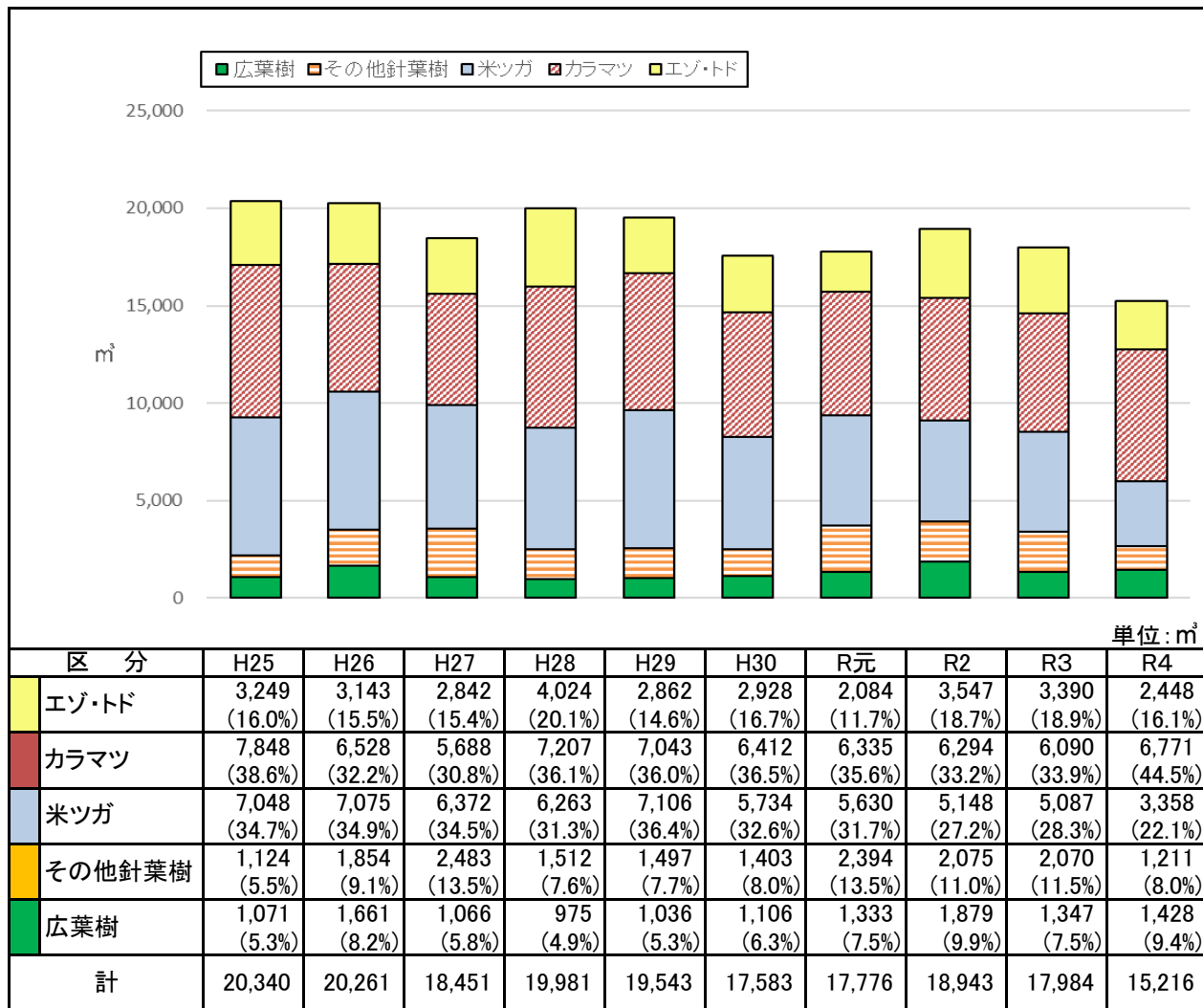


表2-2 形態(素材・半製品)・産地(国産・輸入)別原料使用量

区分		形態					計	構成比
		エゾ・トド	カラマツ	米ツガ	その他針葉樹	広葉樹		
素材	国産材	1,035	2,328	-	22	0	3,385	(100%)
	輸入材	0	0	0	0	0	0	(0.0%)
	計	1,035	2,328	0	22	0	3,385	(100%)
半製品	国産材	1,243	4,443	-	715	1,074	7,475	(63.2%)
	輸入材	170	0	3,358	474	354	4,356	(36.8%)
	計	1,413	4,443	3,358	1,189	1,428	11,831	(100%)
合計	国産材	2,278	6,771	-	737	1,074	10,860	(71.4%)
	輸入材	170	0	3,358	474	354	4,356	(28.6%)
	計	2,448	6,771	3,358	1,211	1,428	15,216	(100%)

単位: m<sup>3</sup>

### 3 木材保存剤使用量

- 令和4年度の木材保存剤使用量は、528.9トンで、前年度より2.8%減少しました。
- 薬剤別の使用量は、クレオソートが449.8トンと最も多く、全体の85.0%を占めており、次いでACQが55.3トンで、10.5%となっています。

表3 木材保存剤使用量の推移

